

パラリンピック北京の舞台裏

新潟医療福祉大学 義肢装具自立支援学科

月城 慶一

1 はじめに

本年9月6日から17日にかけて北京で開催されたパラリンピックの選手村内に設営された修理サービス工場のスタッフとして働くよていである。修理の状況や選手村内の様々な出来事について報告する。



図1 北京パラリンピックのロゴマーク

2 選手村内の修理工場

選手村内の修理工場は 1988 年のソウルパラリンピック以来、義足のパーツメーカーであるオットーボック社（本社：ドイツ）がスポンサーとして、夏冬のパラリンピックで開始したサービスで、同社の技術者と社外のボランティアによって運営されている。2004 年のアテネパラリンピックでは、選手内に設営されたメインの修理工場のほかに、各競技場に 14 箇所のアテナ工場が設置され、1 台の移動工場が競技場と選手村を往復した。



図2 アテネパラリンピックの選手村に設営された修理工場

そして 25 カ国から集まった 107 人の技術者が 2 交代性で修理を行った。行った修理件数は合計 2299 件だった。

3 修理の内訳

図3 にアテネパラリンピックのときの修理の内訳を示す。義肢が 269 件、装具が 110 件、そして義肢装具以外のリハビリテーション機器（主に車いす）が 1920 件だった。

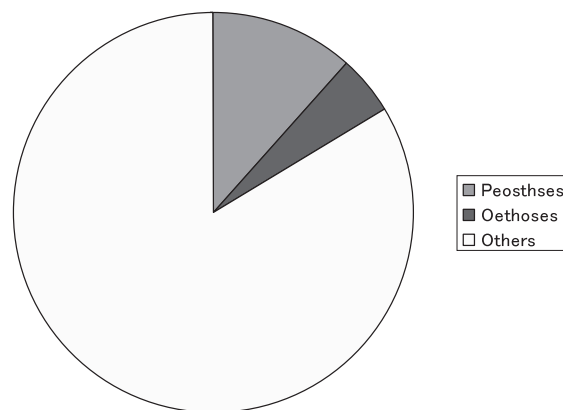


図3 アテネパラリンピックの際の修理の内訳

4 修理内容

アテネパラリンピックの際は、車いすのタイヤ交換を始め、キャスターのアライメント調節、フレームのゆがみ直し、主な修理であった。



図4 車いすのフレームを修理する様子

5 北京パラリンピックでの修理報告

本抄録の提出締め切り時点はまだ北京パラリンピック開催以前である。学術集会では、様々な修理内容を故障の原因も含めて報告したい。